

## 地域だより

瀧野川八幡神社について

八幡神社宮司 藤井知樹

末社について

八幡神社は瀧野川の総鎮守で、神社の御祭神は「品陀和氣命ホンダワケノミコト(応神天皇)」です。創建は、鎌倉時代前期の建仁二年(一二〇二年)といわれていますが、「江戸誌」によりますと文治五年(一一八九年)に頼朝が勧請したとの記述があります。いずれにしても古くより祀られ、今年で八一六年もしくは八二九年もの歴史を有する神社であります。

社殿の裏手からは縄文時代の居住址が見されており、太古の昔より人々が生活を営んでいた土地だと考えられます。現在の社地は、古代の祭祀跡かもしれない。八幡様は武家であった源氏の守護神であり篤く信仰されたことから中世以降各地の武士層へ広まり、その後庶民へと浸透していききました。戦前までは武神としての御利益を崇められていましたが、戦争が終わり平和への願いが日常化していく中で、我々の普段の生活に根ざした諸願成就を祈願するように変化していききました。

神社境内には稻荷神社(倉稻魂命)・富士神社(木花開耶姫命)・榛名神社(植安姫命)の三柱を祀る末社があります。この末社には稲作と水・土の神を祀り、氏子の皆さんが農業の繁栄を強く願っていたのではないかと推察されます。お稲荷様としてなじみの深い稲荷神社は「稲作」の守護神で、我々の衣食住をつかさどる神様です。

富士神社に祀る木花開耶姫命は「水」をつかさどる神様で富士浅間神社の御祭神になります。日本の神様の中で最も美しいと女神と言われており、富士と桜、日本の美を象徴します。また植安姫命も同じく美しい女神様で、「土」の神、「肥料」の神として有名です。

瀧野川では明治時代から終戦直後まで、野菜の種子同屋が多く立ち並び「種子屋通り」と呼ばれていたそうです。神社の社務所は東京種子同業組合の会合場所とされ、瀧野川ごぼうや人参、練馬大根などの種子の価格が決められていたというのも末社の御祭神を考えると納得がいきま



御朱印ブームについて



「御朱印(ごしゅいん)」とは、神社や寺院において、参拝者に向けて押印される印章・印影の事です。押印の他に、参拝した日付、寺社名・御祭神・御本尊の名前などを墨書きするところが一般的です。また、御朱印をもらう(拝受といいます)ために使用する帳面を、「御朱印帳(ごしゅいんちよう)」と呼びます。御朱印の起源は、寺社へ写経を納めた(納経)際の受付印であつたとされています。昨今の御朱印ブームを受けて当神社においてもこの御朱印を受けにいらつしやる参拝者がとても増えてまいりました。休日には遠方よりご参拝いただく方も少なくございません。書店ではいろいろな「御朱印」関係の本が山のように積まれていたりするのを目にします。当神社でもこの一年で、出版社やマスコミより数回の取材を受け、御朱印と通して広く知られるようになってまいりました。